

私立大学研究ブランディング事業

平成 30 年度の進捗状況

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|------|------|-------|
| 学校法人番号 | 231042 | 学校法人名 | 清光学園 | | |
| 大学名 | 岡崎女子短期大学 | | | | |
| 事業名 | 「子ども好適空間」研究拠点整備事業 | | | | |
| 申請タイプ | タイプ A | 支援期間 | 5 年 | 収容定員 | 685 人 |
| 参画組織 | 幼児教育学科第一部・第三部 現代ビジネス学科 地域協働推進センター 親と子どもの発達センター 研究推進センター | | | | |
| 事業概要 | <p>本学幼児教育学科で培われてきた保育、幼児教育に対する知見の蓄積と地域に対する子育て支援、現代ビジネス学科において実践しているユニバーサルデザイン、住環境デザインの教育・研究、及び産学連携事業を接続し、子どもが安全に活動し、子どもにとって居心地が良く夢中になれる空間を研究する「子ども好適空間研究所」を本学独自のブランドとして確立し、研究成果を地域のこども園、幼稚園、保育所、企業、子育て世帯等に還元する。</p> | | | | |
| ①事業目的 | <p>[社会的ニーズ] 「平成 23 年度人口動態統計」では子どもの死亡原因の 0 歳における第 3 位、1～19 歳における第 1 位が「不慮の事故」である。さらにその詳細を見ると 0～4 歳においては交通事故や自然災害を除けば家庭や身近な場所で発生する事故による傷害が多い。そのために子どもの事故を防ぎ、安全で安心できる環境を用意するためには、保育、教育の現場で勤務する人材と、家庭で育児に従事する家族に対する「子どものための空間デザイン」思考の浸透、普及が不可欠である。</p> <p>[研究ニーズ] 1990 年代後半より、日本の産業界において「ユニバーサル・デザイン」の概念が浸透し、2000 年代後半には特に子どもの安全・安心や、子どもの産み育てやすさに配慮した「キッズ・デザイン」の考え方も提唱されるようになった。しかし、地方において子どもの住環境を設計、施工するデベロッパー、工務店等や、保育所、幼稚園等の施設が子どもに関する具体的な知見やデータを保有していることは少なく、子どもの安全・安心を実現する環境デザインの研究と、その成果を社会に還元する取り組みが求められている。</p> <p>また、日本における思春期の若者の「自己肯定感」の低さ、それに起因すると考えられる自殺率の高さなどが社会問題となっているが、自己肯定感の形成と幼児期の体験の関係も指摘されており、さらに音、光、色といった外的刺激量の不適切さが発達障がいの一の要因とする研究結果も存在していることから、子どもが生活する空間について経済効率を追求するのみではなく、安全性を確保した上で子どもが居心地の良さを感じることが出来る空間、集中して活動が出来る空間作りについての研究活動を推進する。</p> | | | | |
| ②30 年度の実施目標及び実施計画 | <p>(実施目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査、インタビュー調査により「ヒヤリ、ハット」事例の収集を行い、データベース化する。 ・「子ども好適空間デザイン教育」の内容検討、教授法開発、並びに事例研究により情報収集に努める。 ・デンマークの保育空間環境の現地調査を行い、地域の保育空間との比較検証を実施する。 <p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒヤリ、ハット」事例調査アンケート項目検討、アンケート作成 (4 月) ・「ヒヤリ、ハット」事例調査アンケート実施 (5 月～11 月) ・広報発信用特設 web サイト公開、リーフレット配布開始 (5 月) ・「子ども好適空間デザイン」教育方法研究、カリキュラム作成 (6～12 月) ・デンマーク保育環境調査 (9 月) ・デンマーク保育環境調査報告会開催 (12 月) ・評価委員会開催 (3 月) | | | | |

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>③30 年度の事業成果</p> | <p><研究活動>事業計画書に記載し平成 29 年度より進行している 6 件の研究プロジェクト「必須研究」と、全教職員に対して研究テーマを募集した 4 件の「課題研究」の計 10 プロジェクトの研究活動を進行した。また、平成 31 年 2 月 26 日より 3 月 4 日にかけてデンマークの幼稚園、病院等の施設を訪問する調査研修を実施した。成果公表のための学術雑誌として「子ども好適空間研究」誌を平成 31 年 3 月に発行し、第 1 号では、研究論文 8 件、調査報告 2 件、研究経過報告 2 件が掲載された。その他に学会における口頭発表 2 件、ポスター発表 3 件の成果を挙げている。</p> <p><広報活動>「hyggeLab」ロゴマーク、キービジュアルの制作を実施し、これを用いたポスター、リーフレット、PR ウォーター等をオープンキャンパスや教員免許状更新講習会などの機会にステークホルダーに対して配布し、事業告知に努めた。また、岡崎女子大学「子ども教育フォーラム」等のイベントにおける講演、シンポジウムや、学生による PR 組織「hygge ミッケ隊」によるラジオ出演、新聞やコミュニティ誌への広告掲載など多面的な広報展開に取り組んだ。</p> |
| <p>④30 年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p> | <p>(自己点検・内部評価)</p> <p>「岡崎女子短期大学研究ブランディング事業評価委員会」により、以下の 5 項目に関し、0 点から 4 点の 5 段階評価 (16 点満点) による内部評価を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アンケート調査や意見聴取、既存データの分析により、現状の本学のイメージ及び認知度を把握・分析したか。 ・評価点 13 点 2) 上記の内容を踏まえ、効果的な情報発信手段・内容を検討したか。 ・評価点 13 点 3) ブランディング戦略の工程と工程ごとの成果指標及び達成目標を策定したか。 ・評価点 14 点 4) 研究費等は研究目的に沿って計画的且つ適正に支出されているか。 ・評価点 11 点 5) 研究活動は研究倫理指針等を遵守しているか。 ・評価点 16 点 <p>(外部評価)</p> <p>平成 31 年 3 月 25 日に「平成 30 年度研究ブランディング事業外部評価委員会」を開催し、以下の 3 項目に関し、0 点から 4 点の 5 段階評価 (16 点満点) による外部評価を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アンケート調査や意見聴取、既存データの分析により、現状の本学のイメージ及び認知度を把握・分析したか。 ・評価点 12 点 2) 上記の内容を踏まえ、効果的な情報発信手段・内容を検討したか。 ・評価点 14 点 3) ブランディング戦略の工程と工程ごとの成果指標及び達成目標を策定したか。 ・評価点 15 点 <p>また外部評価委員より挙げられた意見を以下に集約する。</p> <p>・個々の研究はそれぞれ良いと思います。これを好適空間/hygge というキーワードでどのように有機的に結びつけ、一つの大きな研究として束ねて行くのか、そこに期待したいと思います。貴校としての「好適空間」「hygge」の定義 (仮説と証明) が必要ではないかと感じました。 ・今年度も様々な機会に PR してみえる機会に触れました。特にペットボトルのアイデアは効果的であったと実感しています。</p> |
| <p>⑤30 年度の補助金の使用状況</p> | <p>平成 30 年度は、承認された事業計画に基づいて、広報面では情報発信のためのロゴマーク、キービジュアル、リーフレット、ポスター、PR ウォーター、事業・研究報告誌制作費用等に使用した。研究においては、事業の中核となる 6 プロジェクトで使用する機器、用品、消耗品を購入した他、デンマークの子ども環境調査研修に使用した。</p> |